

ASEAN グローバルプログラムに 参加して

野 崎 瑛里菜

Erina NOZAKI

環境生態工学課程 3年

1. はじめに

2023年8月26日から9月1日にかけて、ASEAN グローバルプログラムに参加し、ベトナムの首都ハノイにて、日本国内と海外で活躍されている企業から提示された「交通課題を解決せよ!」に挑戦するために、ハノイ工業大学の学生たちと一緒にPBLを行ったほか、ベトナムで働く日本人の若手のビジネスパーソンの方々との交流も行った。ここでは、本プログラムに参加した目的、プログラムを通して経験し学んだこと、それを踏まえた今後の課題を記す。表にはベトナムでの活動の日程をまとめた。

表1 研修日程

8月26日	ハノイ着、オリエンテーション
8月27日	ビジネスパーソンとのフォーラム
8月28日	ハノイ工業大学学生と交流 PBL アンケート作成
8月29日	PBL アンケート調査
8月30日	PBL 発表資料作成
8月31日	PBL 最終発表、ベトナムから出国
9月1日	帰国

2. 参加目的

今回このプログラムに参加した理由は3つある。1つ目は、海外の方とコミュニケーションをとる経験をする事だった。私はこれまで一度も海外経験がなく、行ってみたいという気持ちがあった。しかし、コロナ禍や経済状況などがあり、なかなかチャンスがなかったため、このプログラムで海外を知るいい機会であると感じた。2つ目は、グローバルな

視野が求められる中で、海外で働くことについて聞けるコンテンツがあったことだ。私は将来、海外とのつながりのある仕事に就きたいと考えており、先輩ビジネスパーソンが日本にとどまらず海外に来た理由やきっかけなどを実際に聞き、魅力などを感じたかったためである。3つ目は、文化の違いを知り、体感することであった。文化の違いからその国の良さが分かったり、海外では当たり前のことが日本とは違っていたりする点を見つけ、お互いの国のいいところを見つけたいと思ったからだ。以上のことから、自分の成長や視野を広げるいい機会だと感じたため、本プログラムへの参加を決意した。

3. 研修内容

3.1 研修の概要

研修は、ハノイの市内観光、ベトナムで働く日本人ビジネスパーソンとのキャリアフォーラム、ハノイ工業大学の学生とのPBLの3つが主な内容であった。本稿では学びの深かったベトナムで働く日本人ビジネスパーソンとのキャリアフォーラム（写真1）について報告する。



写真1 ビジネスパーソンとのキャリアフォーラム

3.2 ベトナムで働く日本人の方々との交流会

8月27日に、ベトナムで5人のビジネスパーソンによるキャリアフォーラムが行われた。このプログラムでは、私が研修に参加した理由である「海外で働くこと」と「文化の違い」について聞くことができた。「海外に働くこと」については、日本で働いていた際にベトナムで工場の立ち上げのプロジェクトを頼まれて来られた方や、海外に行きたいという

気持ちがあり自らベトナムの関連会社へ行くプロジェクトに立候補した方、元々東南アジアで働きたくてベトナムに来た方など様々な経緯を聞くことができた。5人の方それぞれの経緯があったが、どれも一貫して「まずは行動してみる」ことが大事であると実感した。学生時代に海外に行けなかったため社会人になってから行動してみたり、自分のしたいことを行動に移してみたり、突然依頼されたから行ってみたりなど行動した結果、言語の壁を越え、文化の違いや考え方の違いなどを知り、行動しなかった未来が開けて大きく成長することができ、さらにそれが今後のキャリアにつながる場合もあるのだと理解した。

次に「文化の違い」については、日本と仕事との向き合い方や生活面で大きく違っていた。例えば、日本の会社では協調性を求められるイメージが強いが、ベトナムでは個人主義が主流であり、自分のノルマが終われば定時に帰り、他の人に自分の仕事を任せることもなく、他の人の分の仕事を手伝うことがほばないと言われている方もおられた。これは、自分の分をやらなければ、給料がなくなるという感覚をベトナム人の方は持っている、とのことであった。また家族との向き合い方では、ベトナム人の方は家族の時間を多くとる人の割合が高く、家族と過ごす食事の時間や旅行するなどのイベントが多いようであるとおっしゃっていた。これらから、同じアジアだが仕事や家庭だけでも文化に違いがあることに驚いた。日本とベトナムどちらが良いのかは人や場合によるだろうが、今回お話ししてきた方々はとても働きやすいと答えておられ、みんなが個人主義であるからこそ自分の仕事にさらに責任感を持ってやることができ、その気持ちの仕事への意欲につながり、新しいプロジェクトを立ち上げたり、やりたいことに向けて頑張ることができるのだろうと思えた。



写真2 渋滞の風景
(ラッシュの風景一つでも日本と全く異なり驚いた)

4. おわりに

本プログラムでは、詳しく述べたキャリアフォーラムだけでなく、PBLによる研修からも多くを学べた。日本の学生とベトナムの学生で組まれたグループでPBL活動を行い、チームの一員として責任感を持ち、協調的に進める大切さを学ぶことができた。またそれらを踏まえて、今の自分に足りないことや、優れている部分を新たに見つけることができたため、さらに自己分析を行い、目的や目標をもって行動していきたいと思った。また、私自身が掲げた参加目的もすべて達成できたと思う。言葉などの壁はあったが、身振り手振りで相手に伝える努力をし、相手の方を理解しようと努めることができたことも印象深い。

文化や生活スタイルは国や地域性があるので変えることは難しい。そのため、それになじめなかったり変えたい場合は、いっそのこと場所、つまり働く国自体を自分の働きたいスタイルに合わせて選ぶというのもあり得るように思え、海外で働くことへの抵抗がより低くなったと感じる。今回、このプログラムに参加することができて様々な良い変化を得ることができた。